

History

キラリを再発見

御前崎市最南端の横穴群

郷東横穴群は、箴川中流域右岸の宮内温室団地西南、丘陵の東側斜面に立地しており、白羽・御前崎地区では横穴が発見されていないため、御前崎市最南端の横穴群となります。

郷東横穴群は、平成7年12月7日に3基の横穴が発見され、その後、周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されました。

現状では、3基の横穴が確認されているだけですが、周辺に埋没しているため発見できない横穴が存在している可能性があります。

丘陵の頂部横穴を第1号墳とし、その下に第2号墳、さらにその下部に第3号墳が所在しています。

第1号墳の平面形はフラスコ形、断面がドーム状で東側に開口しています。全長4.3m、玄室の幅2.6m、天井の高さが現状で1.85mです。

第2号墳と第3号墳については、埋没しかけているため計測不能で、3基とも発掘調査をしていないため副葬品などについても不明です。

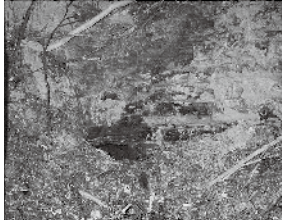
照会 社会教育課 ☎0548⑥1129



▲郷東横穴群第1号墳の現状



▲郷東横穴群第2号墳の現状



▲郷東横穴群第3号墳の現状



埋蔵文化財包蔵地
郷東横穴群

中部電力は7月31日、昨年7月に施行された原子力規制委員会の新規制基準に沿って、最新知見を反映した基準地震動Ss1(1200ガル)として耐震設計を見直す、使用済み核燃料を暫定的に保管する乾式貯蔵施設の計画を公表し、市議会全員協議会でその変更概要を市と市議会へ報告しました。

乾式貯蔵施設の建設は、平成20年12月に公表した「浜岡原子力発電所リプレイス計画等について」の中で計画されていましたが、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う福島第1原子力発電所事故以来、建設計画が延期されてきました。

主な計画概要は、表のとおりです。

▼表 平成20年公表内容との比較

	平成20年 当初計画	平成26年 見直し計画
設計	基準地震動 Ss (800ガル) に対する耐震安全性を確保する	新たに設定した基準地震動 Ss1 (1200ガル) に対する耐震安全性を確保する
貯蔵容量	約700トン・ウラン※ (燃料集合体で約4000体)	約400トン・ウラン※ (燃料集合体で約2200体)
運用開始時期	平成28年(目標)	平成30年(目標)

※トン・ウラン：使用済み燃料に含まれる金属ウラン量 (トン)

Atomic

暮らしと原子力

使用済み燃料乾式貯蔵施設の
建設計画の公表について